

阿南病院は最新の CT 装置を導入しました。

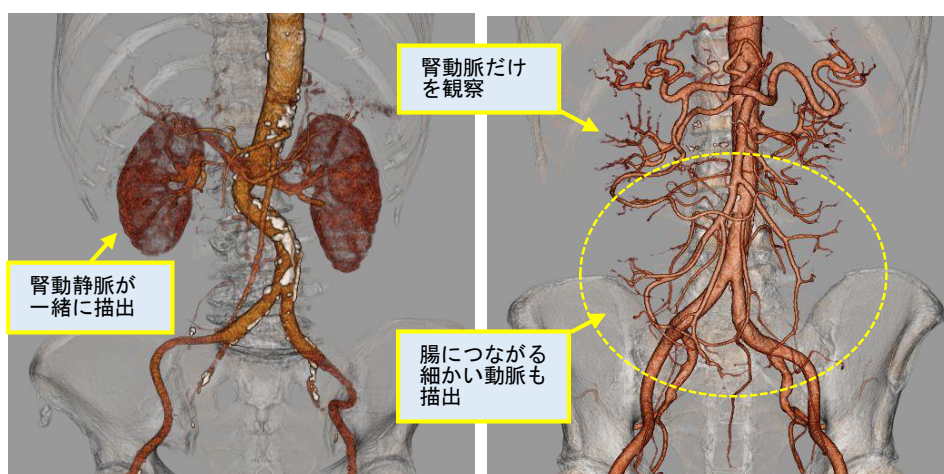


導入した CT 装置は、キヤノンメディカル製の Aquilion™ Prime SP で、多くの大学病院にも採用されている装置の最新機種です。

撮影範囲を受け持つ X 線検出器が、従来の 16 列から 80 列に増加。これにより 1 回に撮影できる範囲は 5 倍に拡大し、従来では 8 秒ほどの息止めが必要だった肺の CT 検査が、新型では 4 秒程度で撮影できるようになっただけでなく、1 回の撮影あたりの情報量が増えたことから、より高精細な検査を提供できるようになりました。

また、撮影時の動きの補正や、体内金属などからの影響を抑えるなどの最新の画像処理技術を備えるとともに、寝台デザインも 78 cm の大口径となり、新たに寝台の左右動作も可能になるなど、患者さんに負担をかけることなく検査の質の向上が図れるようになりました。

・ 質の高い画像の提供



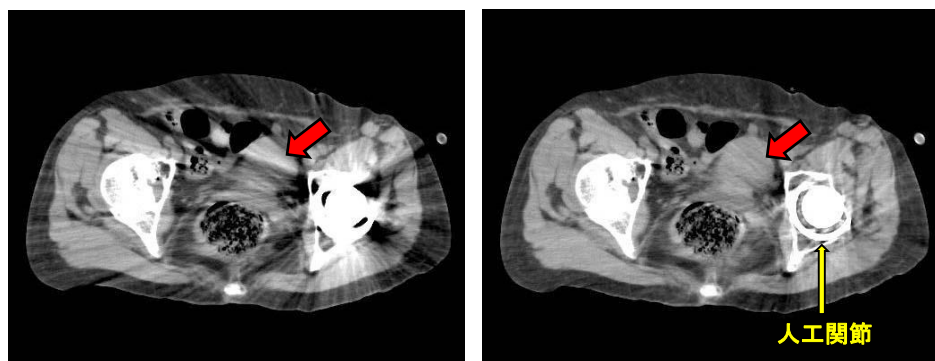
従来 CT による腹部血管画像

新型 CT による腹部血管画像

腹部の動脈は、各臓器へ複雑につながり、血液を供給しています。

従来 CT では、繊細な画像を得ようとする撮影時間が長くなり、動脈と腎動脈が同時に写りましたが、新型 CT では高速で、より多くの情報量が得られることから、従来と比較してより細かな血管まで観察することが可能になりました。

・ 体内金属による画像への影響を低減



従来画像（股関節）

同じ画像に対して補正処理

従来の CT 装置では、人工関節などの体内金属は撮影画像に悪影響を与え、診断を妨げる要因となっていました。

新型では、これを補正する最新の画像処理技術により、体内金属があっても診断が可能な画像を提供します(➡)。